

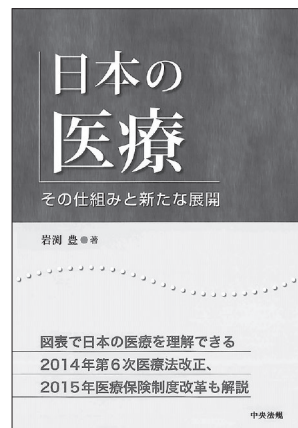
近年の医療制度改革および 医療保険制度改革を 理解するために 必携したい1冊

評者◎朝倉京子

東北大学大学院医学系研究科看護教育・管理学分野

日本の医療
その仕組みと新たな展開
岩淵豊 (著)

本体 2800 円 + 税 / 中央法規出版 (Tel : 03-3834-5817)



2014(平成 26)年には、地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律(医療介護総合確保推進法)が成立し、保健師にとって目の離せない医療・介護両分野の総合的な改革となった。この改革を理解するためにうってつけの本が出版された。旧厚生省と厚生労働省で長く社会保障・医療行政を担当し、2015(平成 27)年まで内閣府で社会保障担当の審議官を務めた岩淵豊氏が執筆した「日本の医療—その仕組みと新たな展開」である。

本書の強みは、大まかにいって2つある。1つは、医療介護総合確保推進法の理解に最適だということである。本書は、2013(平成 25)年に出版された『日本の医療—成り立ちと仕組みを学ぶ』(岩淵豊著、中央法規出版)に最新の動向3項目を書き加えて出版されている。その3項目とは、社会保障と税の一体改革の進展、医療介護総合確保推進法による改正(2014年医療制度改革)、持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律(2015年医療保険制度改革)である。最近の医療制度改革の方向性を決めた社会保障と税の一体改革を含めて、2014年から2015年にかけて行われた医療制度改革と医療保険制度改革を理解するために、本書は必ず役に立つに違いない。

本書の2つめの強みは、医療政策の基本的な課題から最近の医療制度・医療保険制度改革までを、政策の形成過程を含めてこの本1冊で網羅できることである。とりわけ、第2章の「医療政策の形成過程を知る」は秀逸である。国の政策が決定する過程で重要な役割を果たす審議会だけに限れば「会議の政治学」「会議の政治学Ⅱ」(森田朗著、慈学選書)などのよい書物があるが、本書では政策決定の過程について、行政内部での検討の段階から、審議会での検討、内閣法制局の審査、国会審議、成立交付・施行までの一連の流れを包括的に理解することができる。

本書についてさらに特筆すべきなのは、18項目にわたって本文に挿入されている「column」欄である。このコラムによって読者は、本文で示された医療制度・医療政策の内容に関連して、幅広い視点から知識を増やし、制度や政策にさらなる関心をもつことができるだろう。たとえば、「column2 特定健診・特定保健指導に効果はあるのか」では、いわゆるビッグ・データを用いて解析した研究結果を引用して特定健診・特定保健指導の効果に言及しているため、保健師にとって興味深い内容となっているはずだ。

医療・保険制度改革が続く今の時代だからこそ、保健師に必携をお勧めしたい1冊である。